

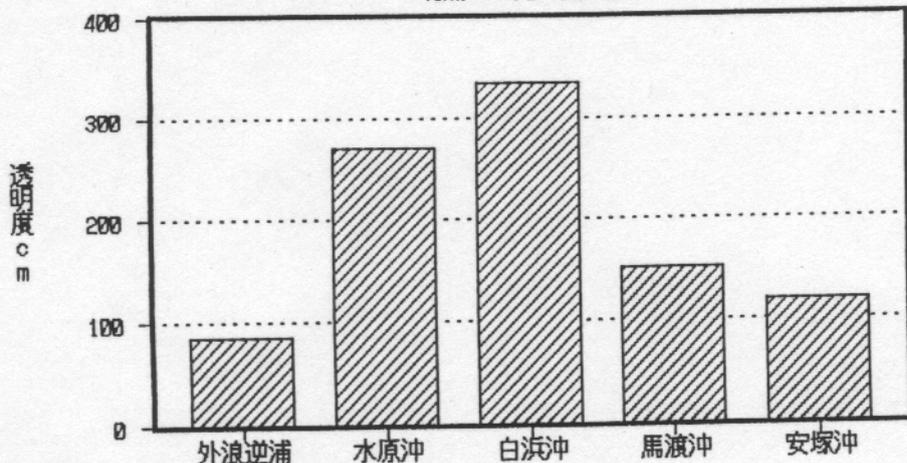
北浦の水が異常に澄んでいる

茨城内水試図

北浦の水が5月22日頃から、異常なくらい透明になっています。

下の図は24日に内水試が調べた、地点別の透明度(25cmの白色の円盤を水中に沈めて、円盤が見えなくなる水深をいい、数字が大きいほど水が透明であることを意味する。)を示したものです。

北浦の5月の透明度



これによると外浪逆浦沖では例年のように、透明度が約90cmであるのが、水原沖や白浜沖では300cm前後と非常に透明になっています。

この水の透明な状態は、江川沖までの広い範囲にわたってみられていますが、馬渡沖から奥部では普通の状態になっています。

このような急に水が透明になる状態は養殖池でしばしばみられ、「水変わり」といわれていますが、これと同じ現象が北浦でも起こったものと思われる。この原因についてはよくわかりません。

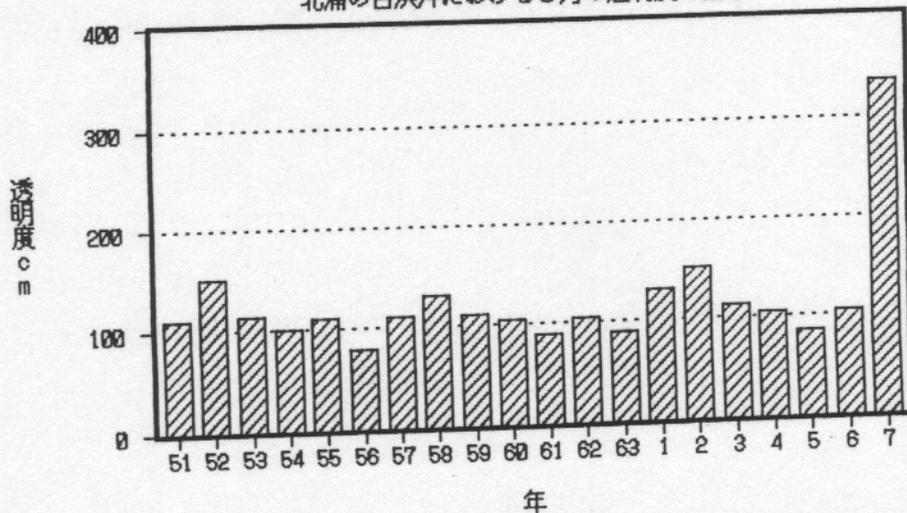
「水変わり」は、水中の植物プランクトンが急激に枯死することによって起こりますが、北浦の水中でも植物プランクトンは極端に少なく、その代わりに動物プランクトンが大量に増殖しています。

酸素を供給する植物プランクトンが少なく、逆に酸素を使う動物プランクトンが増えていることから、水中の酸素量は低下します。観測時の北浦でも通常の半分程度の、5~6ppmの酸素量しかありませんでしたが、もっと低下していたことも考えられます。

しかしこのような湖水の透明な状態も、晴れた日が続けば次第に解消するのが普通です。

なお、下の図はここ20年間の、北浦白浜沖における5月の透明度の推移を示したのですが、100cm前後が普通の状態であるのがよくわかると思います。

北浦の白浜沖における5月の透明度の推移



冬期なら不思議ではありませんが、この時期に湖水の透明度が300cm以上になるのは極めて珍しいことです。